



図-6.14.1.32 注目すべきサンゴ類と海域区分

表-6. 14. 1. 37(1) 海域区分ごとのサンゴ類の状況

海域区分	サンゴ類の状況
松田～豊原地先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 25%以上で生息するサンゴ類はみられず、塊状・被覆状のハマサンゴ属が被度 10～25%で 2 枠、被度 5～10%で 1 枠、被度 5%未満で 179 枠出現しました。ハマサンゴ属以外のサンゴ類はいずれも被度 5%未満であり、トゲキクメイシ属（塊状、被覆状、樹枝状）、キクメイシ属（塊状）、ハナヤサイサンゴ属（準塊状、樹枝状）など 45 属が出現しました。</li> <li>・スポット調査では 55 属がみられ、ハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、ハナヤサイサンゴ属などが比較的多くの地点でみられました。また、群体形別にみると、ハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」の出現頻度が最も高く、次いでキクメイシ属をはじめとする「塊状」、トゲキクメイシ属をはじめとする「塊状、被覆状、樹枝状」などの出現頻度が高くなっています。</li> <li>・インベントリー調査では、254 種のサンゴ類が確認され、フカトゲキクメイシ、コブハマサンゴ、ハナヤサイサンゴなどが多くの地点でみられました。</li> </ul>
辺野古地先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 5%以上で樹枝状や塊状・被覆状のハマサンゴ属、アナサンゴモドキ属（被覆状）、アオサンゴ属（準塊状）などが合計 39 枠でみられましたが、当海域の総枠数（3077 枠）に占める割合では 1%程度となります。</li> <li>・スポット調査では 62 属がみられ、ハマサンゴ属やトゲキクメイシ属などが比較的多くみられました。また、群体形別にみると、ハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」の出現頻度が最も高く、次いでキクメイシ属をはじめとする「塊状」、トゲキクメイシ属をはじめとする「塊状、被覆状、樹枝状」の出現頻度が高くなっています。</li> <li>・当海域には注目すべきサンゴ群生として、塊状ハマサンゴ属群生とダイオウサンゴ群体が分布しています。</li> <li>・インベントリー調査では、255 種のサンゴ類が確認され、フカトゲキクメイシ、コブハマサンゴ、ハマサンゴ、ルリサンゴなどが多くの地点でみられました。</li> </ul>
大浦湾口部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 50～75%で樹枝状や塊状・被覆状のハマサンゴ属が出現するなど、総枠数（478 枠）は最も少ないものの、高被度のサンゴ類が相対的に多く出現しました。</li> <li>・スポット調査では 50 属がみられ、ハナヤサイサンゴ属、コモンサンゴ属、ハマサンゴ属及びキクメイシ属がすべての調査地点においてみられました。また、群体形別にみると、他の海域と同じく、ハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」、キクメイシ属をはじめとする「塊状」、トゲキクメイシ属をはじめとする「塊状、被覆状、樹枝状」の順で出現頻度が高くなっています。</li> <li>・当海域には注目すべきサンゴ群生として、ハマサンゴ科群生が分布しています。</li> <li>・インベントリー調査では、265 種のサンゴ類が確認されました。出現種のうち、フカトゲキクメイシ、コブハマサンゴ、ハマサンゴ、ルリサンゴなど 40 種のサンゴ類が全ての調査地点で確認されており、地点間の環境の差が小さい海域であると考えられます。</li> </ul>
大浦湾西部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 10%以上で生息するサンゴ類はみられず、被度 5～10%でキクメイシ属（塊状）、アナサンゴモドキ属（被覆状）、ハナヤサイサンゴ属（準塊状、樹枝状）などが出現しましたが、被度 5%未満での出現属数が他の海域に比べて多いことから、小型の群体が多い海域であると考えられます。</li> <li>・スポット調査では 36 属がみられ、ハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、キクメイシ属などが比較的多くみられました。また、群体形別にみると、ハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」、キクメイシ属をはじめとする「塊状」、トゲキクメイシ属をはじめとする「塊状、被覆状、樹枝状」の順で出現頻度が高くなっています。</li> <li>・インベントリー調査では、240 種のサンゴ類が確認され、フカトゲキクメイシ、コブハマサンゴ、ハマサンゴ、ルリサンゴなどが多くの地点でみられました。</li> </ul>

表-6. 14. 1. 37(2) 海域区分ごとのサンゴ類の状況

海域区分	サンゴ類の状況
大浦湾奥部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 50～75%で樹枝状のハマサンゴ属が 1 枠みられましたが、これは当海域における注目すべきサンゴ群生であるユビエダハマサンゴ群生であると考えられます。樹枝状のハマサンゴ属は被度 25～50%で 2 枠、被度 10～25%でも 4 枠出現しました。</li> <li>・スポット調査では 43 属がみられ、ハマサンゴ属、キクメイシ属、アミメサンゴ属などが比較的多くみられました。また、群体形別にみると、ハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」、キクメイシ属をはじめとする「塊状」に次いで、ハマサンゴ属をはじめとする「樹枝状」の出現頻度が高くなっています。</li> <li>・当海域には注目すべきサンゴ群生として、上記のユビエダハマサンゴ群生のほか、塊状ハマサンゴ属群生が分布しています。また、スイショウガイに付着したキクメイシモドキが生息しています。</li> <li>・インベントリー調査では、197 種のサンゴ類が確認され、フカトゲキクメイシ、コブハマサンゴ、スボミキクメイシ、アミメサンゴなどが多くの地点でみられました。</li> </ul>
大浦湾東部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 25%以上で生息するサンゴ類はみられず、被度 5～25%で塊状・被覆状や樹枝状などのハマサンゴ属、ダイオウサンゴ属、ミドリイシ属などが出現しました。</li> <li>・スポット調査では 40 属がみられ、塊状・被覆状や樹枝状のハマサンゴ属、キクメイシ属、ムカシサンゴ属などが比較的多くみられました。また、群体形別にみると、出現頻度が最も高いのは、他の海域と同じくハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」ですが、これに次いでハマサンゴ属やミドリイシ属をはじめとする「樹枝状」の出現頻度が高くなっています。</li> <li>・当海域には注目すべきサンゴ群生として、アオサンゴ群生があります。</li> <li>・インベントリー調査では、232 種のサンゴ類が確認され、パリカメノコキクメイシ、コブハマサンゴ、ハマサンゴが多くの地点でみられました。</li> </ul>
安部～嘉陽地先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライン調査では、被度 50%以上で生息するサンゴ類はみられず、被度 5～50%で塊状・被覆状や樹枝状のハマサンゴ属が多く出現しました。</li> <li>・スポット調査では 17 属がみられ、塊状・被覆状のハマサンゴ属、トゲキクメイシ属、キクメイシ属などが多くみられました。また、群体形別にみると、出現頻度が最も高いのは、他の海域と同じくハマサンゴ属に代表される「塊状、被覆状」ですが、これに次いでトゲキクメイシ属をはじめとする「塊状、被覆状、樹枝状」の出現頻度が高くなっています。</li> <li>・インベントリー調査では、266 種のサンゴ類が確認され、コブハマサンゴ、フカトゲキクメイシ、ルリサンゴなどが多くの地点でみられました。</li> </ul>